あそびあとアート！

― 春夏秋冬レストラン in 大阪精神医療センター分教室 ―

大阪精神医療センター分教室

1　はじめに

大阪精神医療センター分教室に在籍する児童生徒は、入院理由が多岐にわたる。個人情報の扱いに特段の配慮を要し、作品展示の際には留意が多い。加えて、急な在籍異動が少なくないこと、図工･美術担当が渡りの教員であること等も相俟って、近年、分教室外の展示は行えていない状況が続いた。しかしながら、発表や鑑賞も教科指導の重要な要素である。そこで、今年度は外部展示を視野に、個人名は出さず、短期在籍の児童生徒も参加しやすい形の「共同制作」を、図工･美術の授業で実践した。

ここでは、8 月に江之子島文化芸術創造センターで開催された大阪府特別支援教育諸学校 43 校による合同作品展示「子どもたちの讃歌」にむけて、刀根山支援学校の 3 つの分教室（本校、大阪大学医学部附属病院分教室、大阪精神医療センター分教室）が共同で取り組んだ「春夏秋冬レストラン」を紹介する。

2　あそびあとアートとは

課題作品を完璧に仕上げることが目的ではなく「表現を楽しんだ時間の痕跡（≒あそびあと）を作品にしよう」という発想である。様々な思いで入院生活を送る児童生徒が、活動をする中で安心感を得、自分なりの方法でアイデアを表出し、共感したり、模倣したりしながら人間関係を築いて、自己肯定感を育むことを大切にする授業をめざした。

3　共同制作

活動の流れ	内容
①共同制作の説明	「子どもたちの讃歌」出品計画→共通テーマ、壁面展示の概要説明
②イメージや知識の共有（季節、レストラン）	・行事、色、思い出ほか、連想することを何でもどんどん出しあう ・参考になる画像、必要な材料など収集する
③表現	・レストランを表現（オリジナルメニューなど） ・レストランにいる人を表現（表情や会話なども想像する） ・タイトルロゴをデザイン
④個々作品完成	発表、鑑賞、模擬レストラン
⑤全体レイアウト	3 つの分教室の参加作品を集約し、1 つの作品にレイアウトする
⑥展示発表・鑑賞	展示会場の様子など報告する

≪工夫・様子≫

①完成サイズ（180 ㎝×180 ㎝）は教室で実測した。大きさ、共同制作、美術館に展示、などに興味を示す反応があった。「春夏秋冬」という展示全校共通テーマを示し、子どもたちと相談

をする中で「食べ物」を題材にする方向へと話が進み、レストランを作ることが決定した。

②経験や趣向なども分かり、楽しい共有メモができた。他分教室の授業であがったイメージも紹介すると、自分たちだけではないということに安心した者もいた。

③勝手に「ミニ美術室」と称した長机に、できるだけ多様な材料や道具を配した。そして、同じカテゴリーのものであっても、表現意図に適したものがどれかを各自が考え、試行し、選択するよう促した。様子を見て適宜アドバイスした。

例：紙類⇒　画用紙、トレーシング紙、和紙、色紙、模様紙、段ボール、セロファンほか
　　貼る道具⇒　糊、ボンド、マスキングテープ、セロファンテープ、両面テープほか

描画に劣等感を持つ児童生徒も、トレースやコラージュ、紙工作など試す中で、自分のスタイルを見つけ、「鰹節作り名人」や「匠パティシエ」が誕生した。自然と友だち間で材料を分け合ったり、教え合ったりする様子が見られた。人物は、自分(鏡)やモデル(ポーズを考えて依頼)を観察しながら描き、バランスなども学習した。

④自分や友だちの頑張りを振り返る中、小学生から「ごっこあそび」を切望する声が上がり、模擬レストランは大盛況であった。演技表現も素晴らしかった。

⑤スペース的な理由もあり、レイアウトは他の分教室で取り組んだ。

⑥「子どもたちの讃歌」に続き、「本校文化祭」、「蛍池公民館ルシオーレ」にも展示し、好評を得た。会場風景は画像で報告した。

４　活動を終えて

児童生徒それぞれが満足した表情で終えることができて良かった。会期が８月ということで、夏季休業明けより前に転出した児童生徒に、美術館の様子が伝えられなかったという点がとても残念である。近年、バーチャル空間上の美術展や、会場全体を 3D 化し、情報端末からも臨場感のある鑑賞が行えるものなど、発表･鑑賞に関しての新しい取り組みが急速に広がる動きがある。本校としても、そのような場をこれからどのように活用していくか、検討が必要である。